

背景・目的

市内農協が新規作物として検討している‘シャインマスカット’について、当地で課題となっている凍害対策や栽培5年目（令和3年5月苗木定植）の管理を検証しました。また、収穫3年目における収量性や果実特性を調査しました。



（圃場の様子 10/8）

結果

生育・収穫調査

①生育調査結果 ※生育が良好な5本の調査樹の平均値

| 発芽期 | 展葉期 | 開花期 | 枯死芽率 | 収穫期 |
|------|------|------|------|------|
| 5/16 | 5/20 | 6/22 | 32% | 10/8 |

②収穫調査結果 ※果房重は全房、その他は各樹の平均的な5房の平均値

| 収穫房数 | 果房重 | 果粒数 | 果粒重 | 糖度 | 裂果割合 |
|--------|----------|--------|-------|---------|------|
| 359 | 487g | 50個 | 11.4g | 18Brix% | 15% |
| （出荷基準） | 480~600g | 40~50個 | 12g以上 | 17%以上 | - |



（収穫果房 10/8）

主な障害

| 障害 | 内容 | 対策 |
|-----------|--|---|
| 獣害 |  <p>栽培1年目にシカによる新梢や葉の食害が確認され、今年の9月末にはアライグマによる果実の食害が確認されました。</p> |  <p>ハウス側窓に2種類のネットを設置しました。 ・5月上旬～9月下旬 →目合い20cm（シカ対策） ・9月下旬～収穫終了まで →目合い0.6mm（アライグマ対策）</p> |
| 積雪による樹の折損 |  <p>これまで推奨してきた樹を寝かせて雪の下にする方法で越冬したところ、6本中2本で雪の重さによる折損が確認されました。</p> |  <p>幹が太くなり折損の危険性が高くなったことから、樹を棚から下ろさずに、天井ビニールを被覆したまま越冬する方法に変更しました。また、防寒対策として、棚下の主幹部にムシロを巻き付けました。</p> |
| 裂果 |  <p>8月中旬（袋かけ後）に多くの果房で裂果が確認されました。被害が大きい果房では約8割の果粒が裂果しました。</p> |  <p>乾燥状態であった土壤に連続した大雨により大量の雨水が侵入したことが要因と思われることから、次年度は土壤の乾湿を一定に保つよう少量多灌水で管理します。</p> |

令和8年度の課題

- ・常時被覆におけるハウス内の低温環境（-15℃以下）での越冬の可能性の検証及び常時被覆以外の越冬方法の検討
- ・果粒の裂果軽減対策効果の検証、収穫後の長期保存方法の検討

結果の活かし方

- ・凍害の軽減により、過去2か年に比べて大幅に増収し、市場流通品と同等品質の果実が収穫可能です。
- ・樹を寝かせて雪の下で越冬する場合は、折損の危険性があるため、幹の太さや形状に注意が必要です。